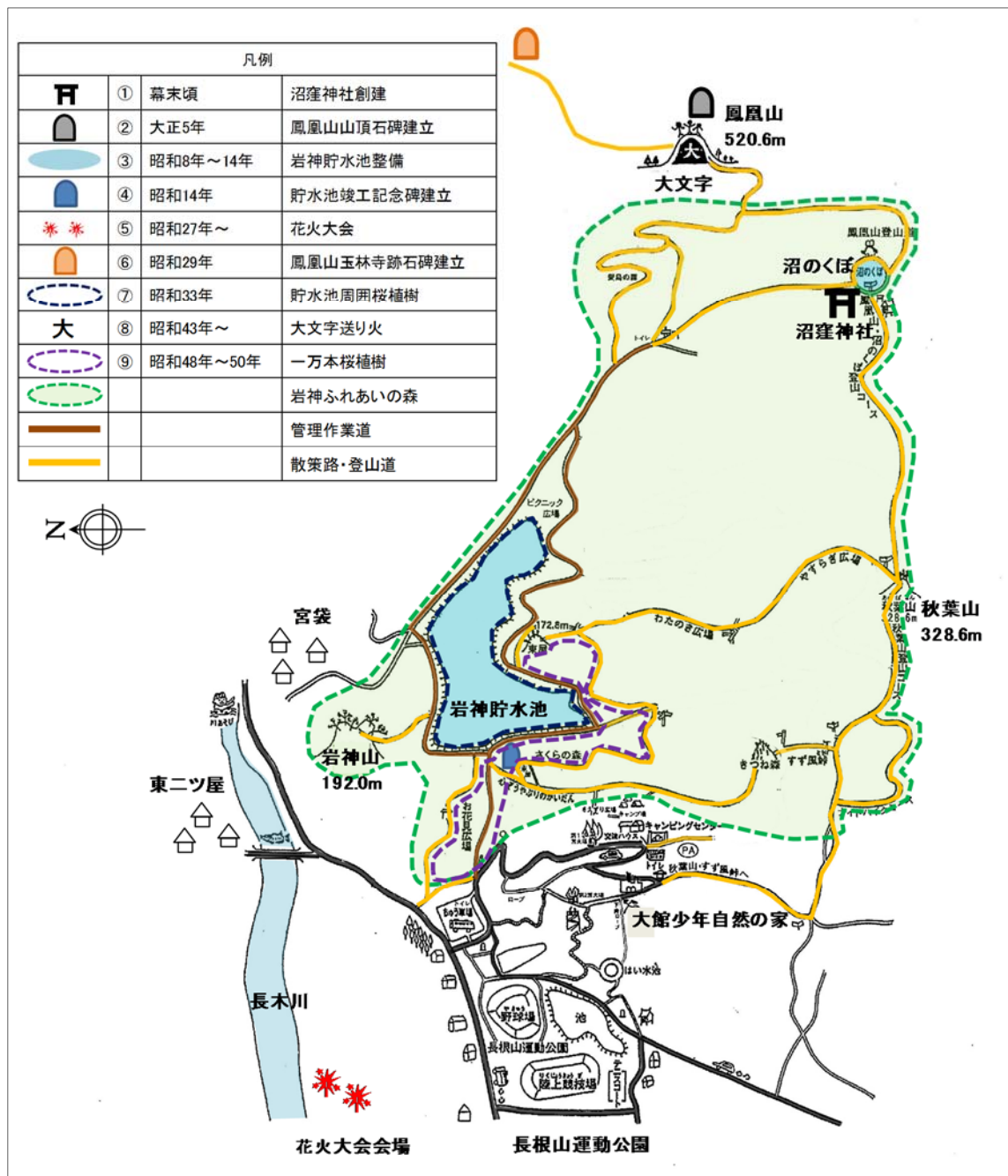


5. 鳳凰山周辺に見る歴史的風致

鳳凰山(標高 520.6m)は、大館市中心部の東側に位置し、市民の暮らしが息づく大館盆地を見守っている。麓には岩神ふれあいの森、岩神貯水池があり、岩神沢の上流部にあたる鳳凰山と秋葉山の鞍部には、沼窪神社が建立されており、鳳凰山を背景に伝統行事や市民の活動が根付いている。

大館地方で、「鳳凰山」の名称が使われた最も古い記録は、「玉林寺」の山号「鳳凰山玉林寺」である。鳳凰山の名称の由来は二説あり、浅利氏がこの地方を治めていた時代に、浅利氏の祖である甲斐の国の「甲斐鳳凰山」とのかかわりで、当時から鳳凰山と呼ばれていたという説と、この山の麓に「鳳凰山玉林寺」を建立したので、以後鳳凰山と呼ぶようになったという説である。



鳳凰山周辺位置図

(1) 岩神貯水池周辺に見る人々の活動

①岩神貯水池の築造

おおだてまち ながきむら しゃかないむら

昭和初期に大館町、長木村、釈迦内村の1町2村が秋田県へ長木川の干ばつを補う要望を重ね、昭和8年(1933)に鳳凰山の麓へ岩神貯水池を築造する工事が始まった。

当時は、土木機械が無く、工事の人夫数は延べ15万人以上におよび、莫大な労力を費やして、昭和14年(1939)に岩神貯水池は無事完成した。

岩神貯水池には、竣工を記念して、地元の1町2村の関係者の名を記した記念碑が近くに建立されている。

貯水池の規模は、長さ130m、高さ23.3m、外周約3kmに渡り、下部内部に波止めの石を張り土堤を築いた。貯水池は665,000 m³もの水を貯え、その完成により277haの農地がその恩恵を受けるようになった。

昭和42年(1967)には「大規模老朽溜池整備事業」に着手後、昭和44年(1969)に完成し現在に至る。その後受益地の宅地化が進んだものの、現在でも約120haの農地へ利用されている。

岩神貯水池は、農業用水の安定供給を主目的に整備されたが、地域の防火や融雪にも利用され、岩神貯水池周辺の散策時には、背景の樹木と一体となり重要な景観を形成している。



岩神貯水池竣工記念式（昭和14年）



竣工記念碑

②緑化活動の始まり

岩神貯水池の工事が始まって間もなくの昭和11年(1936)に緑化活動として桜を植樹した記録があり、昭和33年(1958)には、市民の参加でソメイヨシノを植樹している。これらが桜を植える活動の始まりである。

桜を植える活動はその後も続き、昭和48年(1973)から昭和50年(1975)の3年間で、岩神貯水池周辺の約30haに22種、合計一万本の桜を植樹する活動を展開した。

この活動には、市民有志や婦人会をはじめ諸団体、中学生など市民総参加の協力があり、そのおかげで念願の「一万本桜」を植樹することができた。こうして岩神貯水池周辺の緑化が進むにつれ、散策する市民が増え、この地に対する市民の愛着が深まり、その後も地元企業や観光協会、各種団体による八重桜などの植樹活動が続いている。



昭和49年の植樹活動

③岩神貯水池周辺の維持管理

岩神貯水池は、貯水池が完成した昭和 14 年(1939)から地元水利組合が中心となって維持管理しており、現在は大館市土地改良区が水門開閉、用排水の調整、貯水池の漏水調査、老朽化した施設の点検・修理などを行っている。また、堤の草刈や貯水池周辺の刈り払いや清掃など、通年の維持管理作業は、受益農家と一緒に続けている。



散策路の草刈作業

貯水池周辺の維持管理は、大館自然の会や地域住民、散策者の支援を得て、地元商工会議所や地域の森林組合などが主体となって桜の管理、風雪による倒木処理、散策路の草刈りを続けている。

昨今では、平成 7 年より岩神貯水池北側の広場を中心に、地元大館ロータリークラブ会員や各種団体による記念植樹とその後の育樹活動が続いている。

④岩神ふれあいの森

岩神貯水池の周辺は、地盤が固く植樹した桜が根付きにくい箇所もあったが、厳しい自然環境に耐えた桜が今もたくさん残り、岩神ふれあいの森と呼ばれるようになった。

毎年 4 月下旬から 5 月下旬までは、様々な品種の桜が次々と咲き続け、秋には紅葉と萩、初冬の 10 月に咲く桜もあり、四季折々の美しさを観賞することができる。



岩神貯水池周辺の桜

現在では、岩神ふれあいの森に咲く桜は、東北の桜の名所を集めた「東北夢の桜街 88 ヶ所巡り」の 77 番所に選出されている。

(2) 鳳凰山を舞台とした人々の活動

①鳳凰山を舞台とした伝統行事

鳳凰山を背景とした花火大会は、昭和 27 年(1952)に大館商工会議所主催で開催したのが始まりであり、ながきかわ 長木川の下町橋上流で、したまちぼし 1,800 発の花火が打ち上げられた。

その後も、毎年開催してきた花火大会は、昭和 43 年(1968)から大文字焼きに合わせて



花火大会に集う市民
(昭和 28 年)



長木川から眺める花火
(昭和 28 年)

開催されるようになり、昭和 48 年(1973)には小学生のスクールバンドによる演奏や、大文字踊りが加わり、その後燈籠流しや郷土芸能も披露されるようになった。

鳳凰山の^{しげない}大文字送り火(大文字焼き)は、物故者の慰霊と市民の無事息災を願う行事として昭和 42 年(1967)から調査や準備が行われ、昭和 43 年(1968)の夏に始まり、現在まで毎年開催されている。

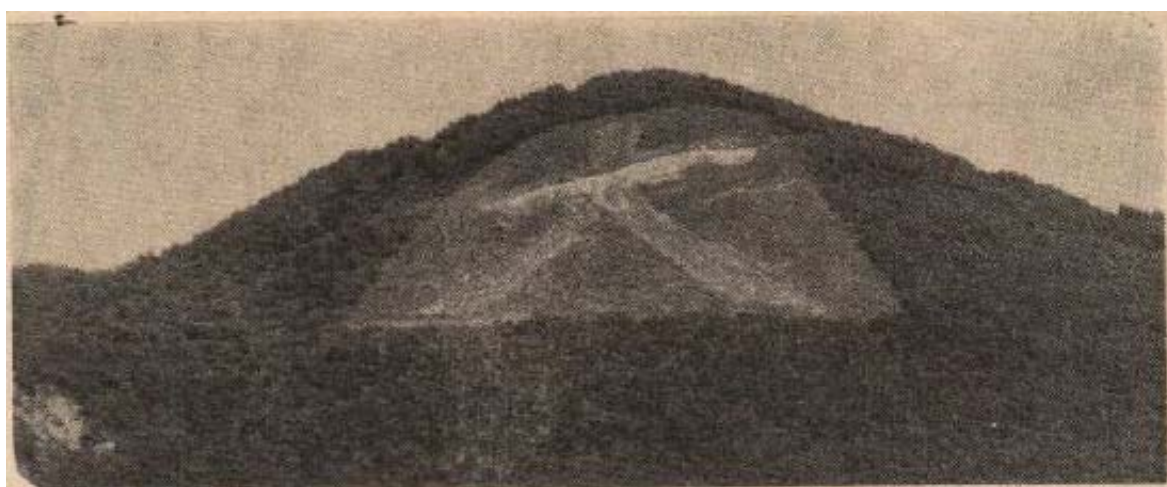
点火作業は、麓の茂内地区住民が中心となってあたってきたが、近年は広く市民のボランティアが参加して行われ、当日は 100 名以上の市民が鳳凰山に登る。

本市の「大」の字の大きさは、1 画目の「一」の長さが 120m、2 画目の「ノ」の長さが 180m、3 画目の「丶」の長さが 150mの合計 450mであり、日本一の大きさを誇る。

また大の字の形を整えるため、毎年熱心に手入れを施してきた市民や関係者は、大館の大文字の美しさは日本一と自負しており、後世へ継承する思いを共有している。



昭和 43 年 (1968) 早春の鳳凰山



昭和 43 年 (1968) 点火前日の鳳凰山

②鳳凰山玉林寺跡の石碑と現在の玉林寺本堂

鳳凰山玉林寺跡の石碑は、曹洞宗鳳凰山玉林寺の
25世重興大機亮仙大和尚が、昭和29年(1954)の9月9日に建立したものである。

現在も、鳳凰山玉林寺跡の石碑を守るため、地域の方々が中心になって、石碑周辺の刈り払いを行い大事にしている。

鳳凰山玉林寺は、大永年間(1521～28)に浅利則頼が久保田松原の補陀寺の9世草庵守瑞に帰依し、鳳凰山北側の麓へ建立したのが始まりである。

その後、鳳凰山玉林寺は浅利氏の本拠地である独鈷に移されたが、浅利氏の滅亡後、慶長17年(1612)に現在地の大館市字大館へ移転した。

近くには蓮莊寺、浄応寺、宗福寺があり、今なお城下町の町割りが残るエリアである。

玉林寺は、現在地に移転後度々の大火に遭いながら、再建を果たしてきた。古くは、寛永17年(1640)の内町・外町300戸焼失時や、延宝4年(1676)の大館総人家9割もの焼失時、慶応4年(1868)の戊辰戦争時、大正8年(1919)の中町周辺550戸焼失時にいずれも罹災した。

特に、戊辰戦争時には玉林寺に本陣を置き南部軍と戦い、付近一帯は焼土が残るだけであった。

現在の本堂は、昭和6年(1931)に建立され、寺紋は浅利氏と同じ「雁がね」であり、屋根などにその特徴が見られる。

また、玉林寺には浅利則頼・勝頼・頼平三代の位牌が残されており、鳳凰山の北側に位置する長木地区の大部分が、玉林寺の檀家である。



鳳凰山の麓にある玉林寺跡の石碑



玉林寺の本堂



浅利氏三代の位牌

③鳳凰山登山に見る市民の活動

「大館山岳会」主催の元旦登山は、会員が昭和 38 年（1963）に登山したのが始まりで、昭和 48 年（1973）からは本格的に大館山岳会の主催事業として続いている。毎年約百名の登山者がご来光を拝み、自身や家族の健康祈願と互いの飛躍を誓い合ってきた。

十代の頃から 50 数回も元旦登山に参加している長木地区の住民によると、早朝 5 時前から登山を始め 7 時頃に登頂するが、楽しみにしていた初日の出を拝むことができたのは数回しかなかったほど冬の気象条件は厳しい。

それでも、厳しい気象を克服し元旦登山を続けてきたのは、共に登る仲間がいたことや、地域の里山である鳳凰山への愛着だという。

鳳凰山の南側に位置する「大館少年自然の家」主催の行事では、登山体験が最も記憶に残っていると話す児童が多く、家族で再び訪れている。

岩神貯水池の奥にある登山口から、緩斜面の尾根道までは比較的歩きやすいが、7 合目からの急な上りでは息を切らす方が多く、8 合目まで登ると遠くに田代たしろだけ ふじさとこまがだけ もりよしさん りゅうがもり いわきさん 岳、藤里駒ヶ岳、森吉山、竜ヶ森、岩木山などの山々を見渡することができる。

春の山開き時に訪れる人も多く、新緑の季節や秋の紅葉、散策路の近くの野草も見どころの 1 つである。

鳳凰山山頂には、大正 5 年（1916）9 月に館林信三氏はじめ、田中徳右衛門氏が世話人となって建立された石碑がある。石碑には薬師大神と刻まれており、地域の人々の健康を祈念し建立された信仰碑である。



昭和 56 年の鳳凰山元旦登山



児童の鳳凰山登山



鳳凰山山頂の石碑

(3) 沼窪神社にみる人々の活動

①沼窪神社の歴史

沼窪神社は、大館盆地の東側の鳳凰山あきばやまと秋葉山あんぶの鞍部に位置し、江戸時代の末期に建立された。

現在の社殿は、地域の人々が長年浄財を貯え、さらに地域共有の財産である登山道脇の松の大木を売却して、昭和 40 年に再建したものである。

鞍部の窪地には、外周 60m ほどの沼がある。窪地の地盤が水を通しにくい地層を形成しているため、雨水や沢水が集まり沼になったものと考えられる。

沼窪神社は龍神様を祀っていて、沼の水源を守護しており、昔から雨乞いの場所として信仰を集めた。



沼窪神社

②沼窪神社の例祭にみる人々の営み

沼窪神社の例祭は、社殿が建立された江戸時代末期から毎年 3 月 25 日に行われていたと伝えられている。

昔は、鳳凰山の麓の東二ツ屋あじまふたつやと宮袋みやふくろの地域で、同じ日にそれぞれの地域の鎮守祭を行っていたため、参拝帰りの人々が沼窪神社の例祭に立ち寄るようになり、当時の長木村で参拝者数が 1 番多い祭典であった。

今でも、東二ツ屋と宮袋の地域の人々に信仰が継承され、例祭は毎年旧暦の 3 月 25 日に続けられている。

この日は、朝から鳥居や参道、沼、神社、神馬社にしめ縄を飾り、神社の掃除、御神酒や御供え物などの準備をして、昼頃から神事が行われる。

かつては、山中に出店でみせが立ち並び、重箱と一升瓶を背負って急な山道を登ってくる参拝者の中には、鹿角市や県南部の人達の姿があった。また、数珠つなぎになった馬の一団も馬頭観音詣でにやって来て、沼の周りをぐると人が囲み一日中宴が続いた。

また、神社のお賽銭とは別に、沼の水面に紙で包んだお金を投じて、その浮き沈みによって吉凶を占う風習があり、地域では毎年舟で沼の底を清掃し、沼の水は飲めるほどに澄んでいたという。

平成の時代になって参拝者は減少したが、東二ツ屋と宮袋の地域の人々は、鳥居の再建やしめ縄の奉納など大切に沼窪神社を守り、鳳凰山や秋葉山への登山中継点として立ち寄る市民も多い。

沼窪神社の沼そのものが、御神体として雨乞いの信仰を集め、自然のままの樹木で囲まれた沼の風景は、神聖で独特な佇まいを醸し出している。



沼窪神社の沼

(4) まとめ

鳳凰山^{ほうおうざん}の西に位置する岩神貯水池^{いわがみ}は、昭和 8 年(1933)から整備が始まり昭和 14 年(1939)に完成後、地域の水不足を補い農地を潤してきた。現在でも農業用水や生活用水へ利用され、地域住民による堤の除草や周辺の清掃活動が続いている。そして、岩神貯水池周辺の整備に合わせ、昭和 11 年(1936)から桜の植樹活動が続けられてきた。

現在では、岩神貯水池や岩神ふれあいの森をはじめとした鳳凰山周辺一帯が、登山などに利用され大勢の方々が訪れている。

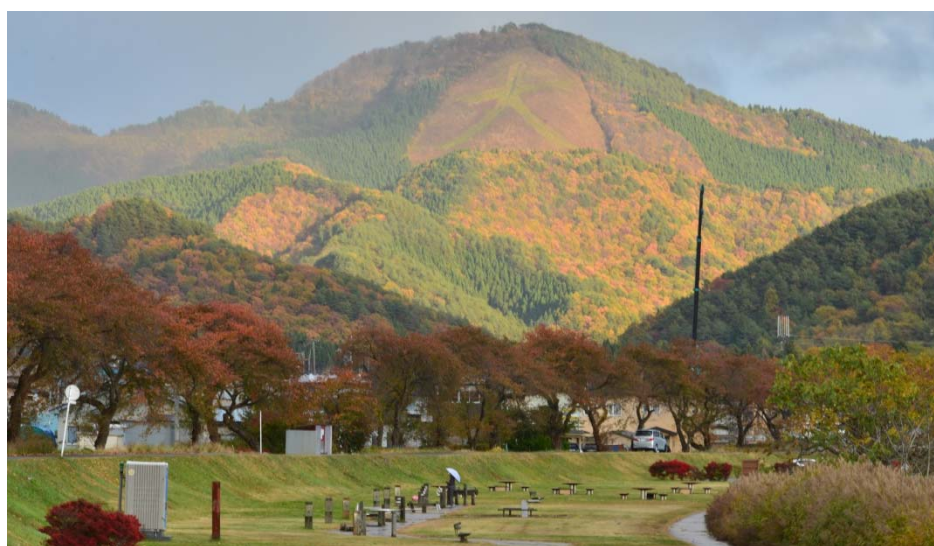
また、鳳凰山の西を流れる長木川で昭和 27 年から続いている花火大会や、昭和 43 年から続く鳳凰山大文字焼きは、市民にとって大事な夏の風景である。

さらに、鳳凰山の南西に位置する沼窪神社^{ぬまのくぼじんじや}で江戸時代末期から行われてい例祭は、今も東二ツ屋地区^{あずまふたつや}や宮袋地区^{みやふくろ}の住民へ大切に継承されている。

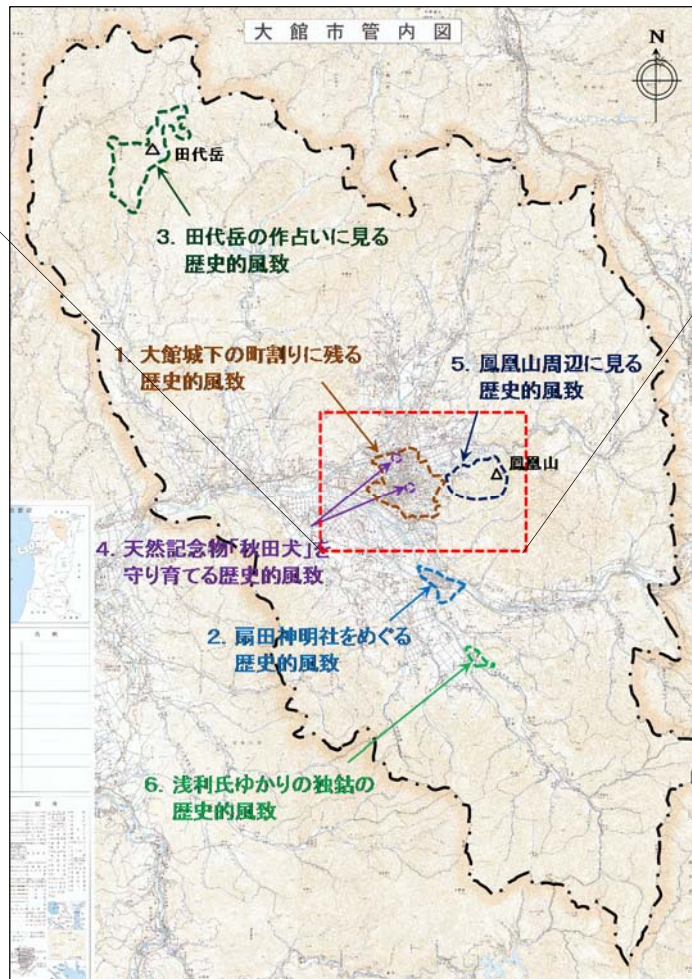
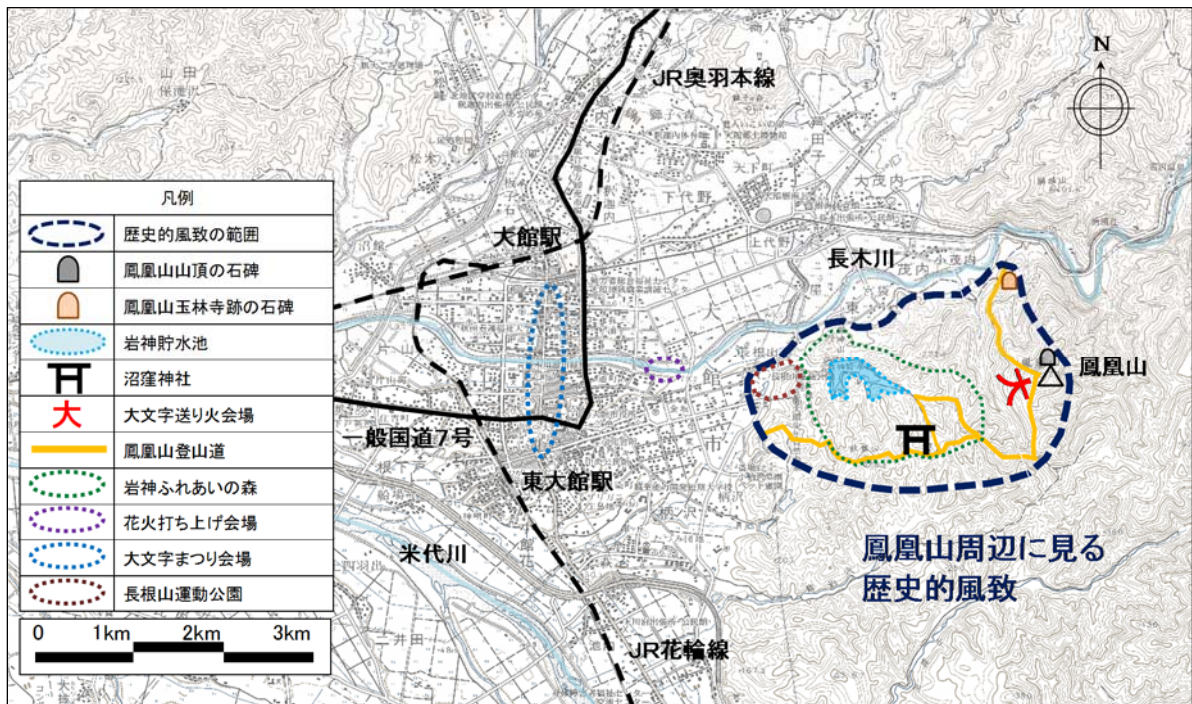
鳳凰山周辺の市民の活動は、建造物や自然と一体となって良好な歴史的風致を形成している。



長木川下流から見る冬の鳳凰山と J R 花輪線



初秋の鳳凰山



鳳凰山周辺に見る歴史的風致の範囲

【コラム】

○「山田記念ロードレース」

おおだてながねやま

ほうおうざん

大館長根山記念公園は、鳳凰山の西側に位置し、大正天皇の即位記念事業として、大正4年(1915)に約1万坪の平地を基に整備された。その後に小学校の連合運動会や、昭和12年の全日本スキー大会、戦後の国際ジャンプ大会などが開催され当市のスポーツ振興の拠点であった。

昭和46年(1971)からは、「長根山運動公園」として総合的な運動施設の整備が図られ、陸上競技や野球、テニスなどの大会が盛んに開催されている。

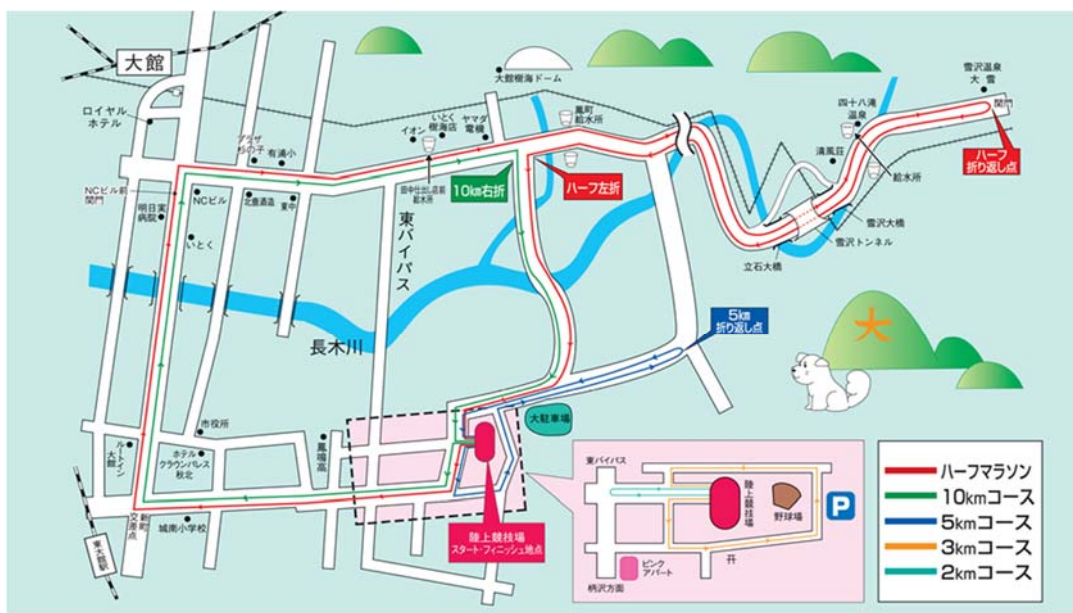
中でも、山田記念ロードレースは、昭和28年(1953)4月20日、第57回ポストンマラソン大会で当時の世界新記録で優勝した当市出身の山田敬蔵選手(大館市名誉市民)を讃え、その偉業を記念し、昭和28年(1953)から開催されてきた。

関東に在住の山田さんは、毎年「山田記念ロードレース」に招待選手として参加され、平成21年(2009)年7月、81歳でフルマラソンからの引退を表明された後も、平成24年(2012)の第60回大会まで健脚を示され、大館市民へ力強い激励をしていただいた。

道路事情や競技の安全を図るため、ロードレースのコースに変遷はあったものの、平成28年4月29日の大会で第64回目を数え、この大会の運営には、実行委員会を組織し、地元陸連関係者はもちろん、大勢の市民が運営に携わり、また沿道での暖かい応援がランナーとの交流に繋がっている。



山田記念ロードレース



鳳凰山を見上げながら走る山田ロードレース